

令和 2 年度
第 1 回沖縄離島 ICT 教育の在り方に関する検討会
議事録

内閣府沖縄振興局

令和 2 年度
第 1 回沖縄離島 ICT 教育の在り方に関する検討会
議事次第

1. 日時：2020 年 6 月 26 日（金） 13:00～15:00

2. 場所：Web 会議システムを使用しオンラインで実施

3. 出席者（五十音順敬称略）

【検討会構成員】

磯部構成員（与那国町教育委員会）、金城構成員（沖縄県町村会）、背戸構成員/座長（琉球大学）、箱田専門職（内閣府沖縄総合事務局、大山構成員の代理）、万寿構成員（伊江村教育委員会）、宮城構成員（沖縄県立総合教育センター）、宮腰構成員（内閣府沖縄振興局）、森田構成員（早稲田大学）、屋宜班長（沖縄県教育庁、玉城構成員の代理）

【説明者】

宮城主任（沖縄県教育庁総務課教育企画室）

【オブザーバー】

酒井参事官補佐（文部科学省初等中等教育局、塩川参事官の代理）

【事務局】

山本主任研究員（(株) シード・プランニング）

4. 議事

（1）開 会

（2）委員改選の報告及び委員紹介

（3）議 事

1 検討会スケジュール等（内閣府）

・前年度の検討会概要の報告

・検討会の進め方

・先行事例ヒアリング

・アンケート調査

2 令和 2 年度の実証実験（背戸構成員）

3 沖縄県内の高校教育の現状（沖縄県教育庁）

4 教育環境改善の取組の現状（沖縄県立総合教育センター）

（4）閉 会

《(1) 開会》

○宮腰構成員 定刻となりましたので「令和２年度 第１回 沖縄離島 ICT 教育の在り方に関する検討会」を始めます。

私は内閣府沖縄振興局事業振興室長の宮腰でございます。このたびは、構成員及びオブザーバーの皆様、大変お忙しい中、本検討会への参加に御協力いただきましてありがとうございます。なお、本日の会議は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインにて開催し、傍聴者及び報道関係者の方も視聴いただいています。

始めに、事務局のシード・プランニングより、会議の全体的な進め方について御説明をお願いします。

○山本（事務局） 本日のウェブ会議システムを使用した検討会につきまして、説明いたします。

本会議は議事録を作成するため録画しておりますので御了承ください。

この後、検討会構成員の皆様の御紹介があります。構成員の方々のカメラをオンにさせていただきます。御紹介が終わりましたら座長、司会、発言者以外の方のマイクとカメラはオフにさせていただきます。

この会議には、検討会の構成員以外の方、傍聴の方も参加されています。傍聴の方については、常にマイクとカメラはオフにさせていただきます。

座長、司会以外の方が発表や発言をされる際には、私どもの方でその方のカメラとマイクをオンにいたします。

こちらで操作をいたしますので、発表者の画面にメッセージが表示されますので、青いボタンをクリックしてカメラとマイクをオンにしてから発言をお願いいたします。

発表に関する資料は私どものほうで、会議画面上に資料が表示されるように操作をいたします。

リアルな会合と異なりまして、オンライン上での会議となりますので、発言をされる際には、いつもよりも少しゆっくり目に発言していただければと思います。

各発表について御質問もしくは御意見のある方は、発表の終了後、手を挙げる、挙手マークをクリックしてください。司会が発表者を指名されましたら、私どものほうでカメラ・マイクをオンにさせていただきます。

会議中に何か接続等の不具合がありましたら、シード・プランニングにお電話をお願いいたします。担当の松葉もしくは陳をお呼びください。何卒宜しくをお願いいたします。

シード・プランニングからの御説明は以上となります。

○宮腰構成員 それでは会議に入らせていただきます。

本日の議題を御説明いたします。本日の議題はまず１番目に、検討会スケジュール等について内閣府から説明。２番目といたしまして、実証実験の実施予定について背戸構成員から御説明。３番目に、沖縄県内の高校教育の現状について沖縄県の教育庁から御説明をいた

きます。4 番目といたしまして、教育環境改善の取組の現状につきまして県立総合教育センターから御説明をいただきます。

配布資料につきましては、議事次第。構成員一覧。資料 1 が令和元年度検討会報告書概要。資料 2 といたしまして、検討会の進め方。資料 3 としまして、アンケート項目案。資料 4 として、背戸構成員の提出資料。資料 5 が、沖縄県教育庁提出資料。資料 6 が、県の教育センター提出資料。それから参考資料をお配りしております。

《(2) 委員改選の報告及び委員紹介》

○宮腰構成員 それでは構成員を五十音順になりますけども紹介させていただきます。
磯部大輔与那国町教育委員会教育課長でございます。

大山研次内閣府沖縄総合事務局総務部調査企画課長でございます。本日は所用のため御欠席となっております、代理として、箱田専門職に御出席いただいております。

金城礼子沖縄県町村会企画振興課長でございます。

背戸博史琉球大学地域連携推進機構教授です。

玉城学沖縄県教育庁県立学校教育課長でございます。

万寿祥久伊江村教育委員会教育行政課長でございます。昨年度の新城課長の御後任として参加されておられます。

宮城篤哉沖縄県立総合教育センターIT 教育班班長でございます。昨年度の當間主任指導主事の御後任として参加をされています。

それから、宮腰奏子内閣府沖縄振興局事業振興室長、私でございますよろしくお願いいたします。

森田裕介早稲田大学人間科学学術院准教授でございます。

それからオブザーバーとして、塩川達大文部科学省初等中等教育局高等学校担当参事官ですが、本日は所用のため御欠席でございますので、代理として、酒井参事官補佐に御出席いただいております。

続きまして、座長を御選出いただければと思います。

本会議につきましては、沖縄離島 ICT 教育の在り方に関する検討会の開催についての規定に基づきまして、座長は互選により決定することとなっております。もし、どなたか御推薦がございましたらお願いいたします。

もし、よろしければ事務局から御提案をさせていただければと思いますが、昨年度に引き続きまして、今年度も背戸構成員に座長をお願いできればと思っておりますが、よろしいでしょうか。特段御異論ないようでしたら、背戸構成員に座長をお願いしたいと思いません。よろしいでしょうか。

それでは以後の議事進行は背戸座長にお願いさせていただきます。

○背戸座長 背戸でございます、声は聞こえておりますでしょうか。大任いただいたのですが、沖縄県の教育環境の改善に向けて、皆様からのお力添えをいただけるよう努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは早速、最初の議題にあります、「検討会スケジュール等について」に入らせていただきます。それでは、内閣府から御説明をお願いいたします。

《(3) 議 事 》

《1 検討会スケジュール等（内閣府）》

《前年度の検討会概要の報告》

○宮腰構成員 宮腰です。スケジュールの前に、前年度の報告書の概要を御説明させていただいて、その後今年度の進め方ということで御説明をさせていただければと思います。

お手元に資料1といたしまして、「令和元年度 ICT を活用した離島における高校教育調査研究報告書」をお配りしているかと思います。

まずこの1枚目を御覧いただければと思います。まず1枚目につきましては、現在の離島の状況ですとか、教育制度の現状について取りまとめをしたものでございます。

まず離島での現状ですけれども、現在沖縄県内には高校の無い離島を有する市町村が15市町村、そちらでの高校進学率は平成29年度で100%となっております。

平成30年度についても、同様の数字となっておりますけれども、こうした子どもたちが中学卒業と同時に、高校進学のために島を出ることになりまして、子どもたち、家庭への様々な負担につながっているとされています。

続いて、現状の制度についてでございますが、県や市町村による支援策として、こうした離島の子どもたちに対しまして、奨学金等の給付対応、学生寮の設置などございます。

このほか、県内の市町村から、年間24万円以内を支給するような制度もございます。

学生寮につきましては、沖縄県立離島児童生徒支援センター群星（むるぶし）寮のほか、県立高校の寄宿舎の設置もございます。

遠隔教育につきましては、平成30年に文部科学省のほうで方針を示されておりますが、高校で認められております、教科・科目充実型では、受信側の教員に当該教育の免許の有無を問わずに、高校卒業に必要な72単位のうち36単位を遠隔教育で取得することが可能となっております。

高校設置にかかる制度上の要件につきましては、高校設置基準等におきまして、面積や設備、定員等の基準がございます。

通信制課程におきましては、添削指導や面接指導、試験が実施されておりますけれども、近年ではサテライト施設への通学のコース、インターネットを活用した多様な方法も進んで

いるところでございます。

次のページに進んでいただきまして2ページ目でございます。

離島の中学生、離島出身の高校生、保護者、それから離島の自治体の方々を対象といたしまして、アンケート調査を実施しております。

まず初めに島の教育の現状が、その4つ並んでいるグラフのところでございます。高校進学を機に、島を離れて生活することについて、左から2つがそれぞれ中学生・高校生の結果。右側2つが保護者のそれぞれの結果となっております。

中高校生につきましては、「特に何も思っていない」、円グラフで申し上げますと黄緑色の部分でございますけれどもこれが多くなっております。

保護者につきましては、「これを機会に島を離れてみてもよい」、円グラフでは紫色の部分になりますけれども、最も多くなっております。

下半分御覧いただければと思います。ICTを活用した新しい形態の高校についてでございます。新しい形態への進学希望につきましては、左側から中学生・高校生に聞いた結果でございます。

新しい形態の高校への進学希望につきましては、中学生は「どちらともいえない」、高校生は「あまり進学したくない」が最も多くなっております。その理由といたしまして、それぞれ横の棒グラフで示しておりますけれども、中学生は「ICTを活用したイメージが分からないから」、高校生は「高校進学時に島を出たいと思っているから」、が最も多くなっております。

次のページにお進みいただければと思います。引き続きアンケート結果でございます。

上の半分で通信制高校への進学について聞いたものでございます。左側が中学生、右側が高校生となっております。

中学生・高校生ともに、「通信制高校への進学を検討したことはない」が大半を占めております。その理由としては、「他に行きたい高校があるから」、「部活動ができなさそうだから」、「大学受験に不利そうだから」、というような理由となっております。

最後に下半分でございますが、こちら自治体へのアンケートの結果でございます。ICTを活用した新しい形態の高校設置に関する自治体の意向でございます。

「積極的に取り組みたい」との回答は1自治体、「自治体の負担の規模等を踏まえて検討したい」が3自治体、「取り組む予定はない」が6自治体となっております。理由としては、「ニーズがない」、「対象者が少ない」、などとなっております。

アンケートについては以上でございます。

次に4ページ目、次のページにお進みいただければと思います。続いてICTを活用した先行事例の調査についてまとめたものでございます。

ICTを活用した遠隔授業につきましては、全国の人口減少地域等でも実践事例が展開されております。こうした事例を視察して現場での工夫・課題をお伺いして、本検討会における検討に生かす観点で視察を行わせていただいております。

本検討会では昨年の12月18・19日に、熊本県高森町の高森東義務教育学校、熊本県山江村の山田小学校、宮崎県立飯野高等学校を視察させていただいております。それぞれ遠隔授業を実施されるのみならず、他校との修学旅行の事前学習や、あるいは渡り廊下に常時接続して交流できるようにしていること、海外の学校とも繋いでいることなどの、様々な取組をしておられました。

こうした状況をお伺いし、意見交換を行いまして、例えば授業展開における教員同士の端末の活用方法が参考になったという御意見や、学校間、教員間の日常的な交流の重要性を指摘する御意見がありました。

続きまして下半分でございますが、与那国町・伊江村間でのICT実証実験についてでございます。平成29年度から離島ICT教育実証事業を行ってございましたけれども、平成29年度から2年間、与那国町と琉球大学間で実施いただきましたが、3年目の取組としては離島間の合同授業の実施ということで、与那国町の久部良中学校と伊江村の伊江中学校で遠隔授業を実施してございます。

令和2年の2月3日から7日まで5日間、常時接続いたしまして遠隔授業のほか、給食交流や英語の読み聞かせ、部活の紹介など授業の時間以外の交流も実施いたしました。

授業については、2月6日に英語、7日に総合的な学習で遠隔授業の実施をしてございます。英語の授業では、昨年度の実証委員会における提言も受けまして、タブレットを活用したグループでの学び合い活動も実施しております。

生徒たちにこうした授業の結果についてアンケートを取っておりますけれども、その中でも肯定的な回答が多かったほか、生徒間交流についても関心を示されているところでございます。

今年度（前年度）の成果といたしましては、異なるシステム間のクラウド利用による接続を確認できた点や、生徒達が異なる文化への交流に高い関心を示したこともございました。一方で音声ハウリングが発生したことなどの課題も明らかになってございます。

次のページへ進めていただければと思います。取りまとめでございます。これまでのアンケート調査や検討会における議論、また今年度引き続き検討が必要な事項についても整理をしてございます。

まず最初ですが、「離島において高校が存在しないことについての課題等について」でございます。高校進学に際し島を離れることについて、保護者の経済的負担のほか、子どもにとっても負担になるという御意見がございました。

一方で、島を離れることについて子どもは「特に何も思っていない」、保護者は「この機会に島を離れてみてもよい」が最も多くなっております。中学卒業後に島を離れることは当然であるとの認識もございました。

検討会では島に高校が無いのを当たり前に感じていて、残るという選択肢を考えたことが無い方も多いのではないかと、高校が無いという環境を合理化していることではないかということで、教育機会平等の保障や、子どもたちが通う場の選択肢が必要という御意見があ

りました。

次に「ICT を活用した高校等に関する意識について」でございます。

保護者や子どもたちの意向について考えますと、アンケートでは ICT を活用した高校への進学は消極的な意見となっています。

その理由としては、「ICT を活用した学校のイメージがわからない」という答えも多かった一方で、子どもたちが高校進学する理由は「将来の職業のために必要だから」、「大学に進学したいから」、「部活動を頑張りたいから」、という理由が多く挙げられています。

今後はこうしたニーズも踏まえたうえで、ICT を活用した高校でそうしたニーズをどう提供していくかについて整理していく必要がございます。通信制高校についても、「選択肢として検討したことない」が多くなってございますが、通信制高校のなかにも、通学コースを含めた様々な工夫もされていることから、こうした参考になる取組についても整理する必要があります。

続きまして、離島における教育課題改善に向けた対応策です。

離島ということで今説明をしておりますけども、島によって人数・状況は様々でございます。今回とったアンケートでも、自治体の意見も様々であり、積極的に取り組みたいという自治体は、1自治体にとどまっております。さらに、沖縄県全体で言いますと、高校入学者数は6%減少しておりますし、離島にある高校では16%減少している現状もございます。

こうしたことを踏まえて引き続き、自治体の理解を深めることも必要になるほか、高校のある離島の取組も含めて、県内の高校教育の現状・課題についても整理する必要があります。

こうした課題を整理した上で、ICT を活用した高校を設置するとした場合、全日制や通信制などの設置形態や求められている教育内容、あるいは県立・市町村立・一部事務組合・私立、こうした形での設置主体をどう考えていくかも整理していく必要があります。

今申し上げた以外にも、離島の教育環境の課題といたしまして、小規模複式学級、教科担当外の教員が教えることや、同じ教科の先生方の話し合いが難しいなどがございます。

こうした課題の解決のため、ICT を活用した教員同士のやりとりや研修などの実施、教員に ICT に関する理解を深める、こうした取組も必要と考えられます。

今ざっと御説明しました報告書の概要ですけれども、本文も内閣府のホームページのほうに掲載されていますのでまた御覧いただければと思います。

《検討会の進め方》

《先行事例ヒアリング（離島の高校、ICT を活用した高校）》

○宮腰構成員 お時間いただきまして恐縮ですが、続いて、「令和2年度、今年度の検討会の進め方」の説明をさせていただきます。資料2を御覧いただければと思います。

今年度の本検討会の進め方でございます。

まず第 1 回のところが今回でございます。今私の御説明しているのが全体スケジュール等ということでございますけれども、このあと先ほど御説明した議題のとおり御説明いただく予定でございます。

本日、御相談させていただきたいところが 3 点ございます。まず①今年度の進め方について。それから、②先行事例ヒアリングについての御意見、③アンケートへの御意見をいただきたいと思っております。

先行事例のヒアリングにつきましては、「離島の高校」、「ICT を活用した高校」、と書かせていただいておりますが、まずポイントとして 2 点考えています。1 点目としましては、先ほどの取りまとめのなかでも、県内の離島の高校の状況についても把握する必要があるのではないのかという観点でございまして、県内の離島の高校の校長先生ですとか、そうした方々から、現状について伺いする機会を得られないかということでございます。2 点目といたしまして、通信制等で ICT を活用した高校の取組をお伺いできないかということでございます。

例えば沖縄県では N 高校もちょうど県内に所在しているということで、こうした高校における取組、あるいは県内の通信制の高校ですと、泊高校ですとか、こういったところについて伺いすることができないかと考えてございます。

ちょうどコロナの話もございしますので、直接伺いするか、ウェブで意見交換を行うか、そうしたことも含めまして、ヒアリング先、あるいはこうしたことを行うことについて御意見いただければというふうに思っております。

アンケートについては後ほどまた別途、御相談させていただきます。

あと今年度のこれ以降の進め方でございますけれども、ヒアリングの時期につきましては、まだヒアリング先も決まっておりませんのでとりあえず仮で入れさせていただいておりますが、もし夏に実施できれば夏ということで入れさせていただいております。

第 2 回については、9 月から 10 月ということで、秋頃と考えておりまして、ヒアリングを実施できればその結果、アンケート項目、実証実験の進捗について御確認いただければと思います。アンケートにつきましては、この 10 月から 12 月、年内の間に、実施できればというふうに思っております。第 3 回については、12 月から 1 月にかけて、取りまとめのイメージの骨子、アンケートの結果等について御議論いただき、最後は年度末に取りまとめをする、というスケジュールで考えております。

今、御説明いたしました今年度の流れについての御意見や御質問、先行事例のヒアリングについての御意見や御質問、ヒアリング先などについての御意見いただければと思っております。説明長くなりましたが以上となります。よろしくお願いいたします。

○背戸座長 はい、ありがとうございました。

それではただ今の説明につきまして、御質問や確認事項等を頂戴したいと思います。

大きくはですね、前年度の概要、検討会の進め方、先行事例のヒアリング、という 3 点あ

ったかと思います、どの点でも構いませんし、確認事項でも構いませんので、どうぞ何かございましたら、参加者というところをクリックしていただきまして、そこに手を挙げるというボタンがございますので、それを押していただいて、御発言いただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。前年度の概要につきましては報告書も出ておりまして、御質問等無いかもしれませんが、今年度のスケジュールの点、先ほど説明にありました先行事例のヒアリングですね、離島の高校、それから通信制の高校に対するヒアリング、これの候補校ですとか、あるいは方法ですとか、観点ですとか、何かそういったことがございましたらどうか、御意見いただけますと、ありがたく思います。いかがでしょうか。上か下のボタンの参加者というところを押していただくと、そこに手を挙げるという機能ありますので。

これは宮腰さんですかね。では、宮腰さんお願いします。

○宮腰構成員 宮腰です。先行事例のヒアリングにつきましては、離島の高校といってもですね、八重山高校ですとか、宮古高校ですとか、いくつかあると思いますので、全部とはなかなかいかないと思いますので、ここに聞いたらいいんじゃないかとか、こういう観点で聞いたらいいんじゃないかということで、皆さんに意見いただければありがたいと思っています。

○背戸座長 はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。

例えば、与那国町ですとか、伊江村から主に行くような高校にはお邪魔して離島からの進学者の様子を見るのも可能なのかなと思います。そういう意味では、磯部様いかがでしょうか。与那国からは八重山高校にいかれることが多いのでしょうか。

○磯部構成員 磯部です、聞こえていますか。

与那国町からは実は、八重山のなかの高校に行くよりも、沖縄本島に行く生徒のほうが多いです。なので、とても広範囲に渡っているので、そういう面では八重山には限定されない状況です。

ただ、石垣島には高校が3校あるので、離島の方で考えるよりも、1島に1校あるような島のほうがそういった特色あるのかなと思いました。

○背戸座長 ありがとうございます。そういう意味では、魅力化プロジェクトもやっている久米島高校とかも十分候補に入りそうですね。ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。では、森田先生お願いします。

○森田構成員 よろしく願いいたします。私のほうからは沖縄の事情が良く分からないので高校の名前を挙げることはできないですけども、先ほどの観点についてコメントさせていただきます。

実は今回調査をしている資料1ですね、昨年度の結果というのがコロナの前に取っているものですから、このコロナの後で、生徒さんの意識が変わっている可能性もあると思います。

そういったところを踏まえて、資料1のように既に報告書はまとめているのですが、確認

をしながらですね、ヒアリングとかをするのがいいのかなと思います。

ヒアリングの対象は生徒さんでは無いのですが、確認しながらヒアリングをするのがいいのかなと。学校にも何か変化があったかを踏まえてモニタリングしないと、整合性の取れない報告になってしまうのではないかと思います。以上コメントを終わります。

○背戸座長 はい、ありがとうございます。

おっしゃるとおり、既に前年度行った高校があるわけですが、パッと想像するにはこのコロナには強かったというようなこともあると思いますので、そういうフォローも観点として入れたほうがいいのかと思いました。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。今の点、宮腰さんいかがでしょうか。

○宮腰構成員 宮腰です。確かにコロナの前と後では、色々な面が変わってきているところはありますので、そういった点を踏まえていくのは大事かと思います。以上です、ありがとうございます。

○背戸座長 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。あとでまた思い付いたりしたら御意見いただければと思います。

もう1つ、アンケート調査の実施ということに関しての報告がありますので、引き続き宮腰さんのほうから御説明お願いいたします。

《アンケート調査》

○宮腰構成員 宮腰です。そうしましたら、資料3のアンケート項目について、御覧いただければと思います。

昨年度に引き続きまして、アンケート調査を検討しております。これまでの先進事例の視察や実証実験においても、ICTの活用にあたっては、自治体としての取組や先生方が準備しやすい、取り組みやすい仕組みが必要という御意見いただいているところでございまして、こういう観点からどういう活用状況になっているのかという点も踏まえて、どうするかというアンケートを行ってみてはどうかと考えております。

資料については大きく分けまして、教育委員会と個々の教員の先生方に向けたものと分けて整理しています。

まず上のほうの教育委員会を対象としたものですが、まず1といたしまして、ICTを活用した授業に関する現状でございます。

こちらは実施の有無ですとか、あるいは実施した結果、それから課題、こうしたものをお伺いしてみてもいいということで、まとめております。

2は授業以外でのICTの活用の状況についてでございます。

3といたしまして、学校においてICTを活用した授業ですとか、環境整備、こうしたものについて支援を行うICT支援員の方々の配置が進められていると承知をしております、

この配置の状況についてお伺いしたいと思います。各地域によって、差もあるのではないかと、そうしたこともあるのではないかと思います。

4 番については、市町村長向け、首長の方を対象に、お伺いできればと思っておりますが、昨年の設置意向という形で、各自治体のほうにお伺いしているところですが、今回はより具体的な観点から、自分たちで設置すること、あるいは一部事務組合で設置すること、あるいは分校という形で市町村に設置をされること、こうしたことへの考えについてお伺いできればと考えております。

1～3 は県内全部の市町村圏を考えておりまして、4 は高校の無い離島のある市町村を対象と考えてございます。

続いて、教員の方を対象とした部分です。

こちらについては、ICT を活用した授業に関する意識あるいは意向、といった観点からの意見をお伺いできればと思っております。全教員にお伺いするのは難しいと思いますので、やるのであれば抽出による調査、各市町村で数名ですとか、数が多い自治体におかれてはそれに応じて人数変えることも考えられるかなと思っております。

あと、教員対象のところは大きく P と付けさせていただいているのですが、文科省さんからも御意見がありまして、学校現場では、コロナ対応の関係で休校していた期間分を取り戻す授業を行わなければならない状況でございまして、文科省としても、そうした授業を最優先する観点から、教員の方向けの調査やアンケート調査は可能な限り控えていただきたいとお話いただいているところでございます。

今回、お示しをした案のなかでは、現場の先生方の ICT に対する意識ということもお伺いしてみたいということで、項目としては盛り込んだ案とさせていただいた案にしておりますけれども、こうした現場の先生方の状況についても踏まえた上で実施するかどうか御意見いただければと思います。

本日、オブザーバーで文科省の方にも御参加いただいているので、補足でのコメントいただければと思います。全体としましては、上の部分も下の部分も含めてアンケートについて御意見いただき、それを踏まえて、具体的な作業をこれ以降に進められればと思っております。御意見いただければと思います。

私のほうからは以上となります。

○背戸座長 ありがとうございます。それでは、ただいま御説明のありましたアンケート調査の実施につきまして、御意見・御確認等ありましたらお願いいたします。

先ほどお話がありました、文科省のほうから酒井さん、補足事項等ありますでしょうか。

○酒井参事官補佐 失礼いたします、聞こえていますでしょうか。文部科学省の初等中等教育局の高校担当参事官付の酒井と申します。

先ほど宮腰室長様からですね、御紹介いただきましたアンケート調査項目につきまして、文部科学省のほうからコメントということで、指名いただいたところでございます。

これにつきましては新型コロナウイルス対策のため、昨年度から一斉休校・緊急事態宣言

に伴い全国で臨時休校が行われたという状況になっておりまして、今は全国の小中高等学校において、授業日数確保のための取組を各学校進めています。

今、文部科学省のほうではそういった取組を最優先していただきたく、国のほうからの学校・教員対象の調査やアンケートはなるべく差し控えようということで今、文科省としてはそういった方針で取り組んでいる状況です。

この全体の、日程・スケジュール感のところでは、10月から12月でアンケート調査を予定されていたので、そういった場面での状況もあろうかと思います。仮に実施することになりましたら、ぜひその際は、沖縄県教育庁様や県内の自治体とも相談いただいて、現場の先生の御負担が無いように御検討いただければと思います。

私からは以上でございます。

○背戸座長 ありがとうございます。

目的自体が教育環境の改善なので、環境の悪化につながるような試みは少なくとも当面控える必要があるのかなと思いついて伺っていました。

今の点も含め、御意見どうでしょうか。2人挙がっていますね、まずは磯部様からお願いしてよろしいでしょうか。

○磯部構成員 与那国町磯部です。よろしくお願いいたします。

先ほどもありましたコロナの関連で、沖縄県教育庁の義務教育課などからも、ICTなどに関するアンケートが何度か来ていましたので、この辺りを踏まえながらも、もしやるなら重ならないような部分、データをいただけるようなものはいただくとかできればいいと思いました。以上です。

○背戸座長 そうですね。もしそういうことならば、是非、既存の調査を見させていただいて、その過不足を見るのも大事なかなと思います。続いて、森田先生お願いします。

○森田構成員 聞こえていますでしょうか。ありがとうございます。

磯部委員からも出てきたので少し被ってしまうところもあるのですが、私が聞いたかったのは、実際のところ、文科省でも学校の情報化の実態の調査はしておりますし出ているとおりであります。

今回はGIGAスクールの構想が走ってですね、タイミング的に前倒ししてやっているために、このICTに関する調査が導入したばかりのところなのか、される前なのか、タイミングが微妙かなと思いました。

そういった点を、事前に調査があるようならば踏まえていただきたいですし、GIGAスクール構想とのかかわりについても検討しながら進めるのがよろしいのかと思いました。私からは以上です。

○背戸座長 ありがとうございます。そうですね、少し周辺情報を整理しながらやるのが必要かなとも思いました。ほか何かございますか。情報提供、今のような御意見ですとかありますか。

宮腰さんですね、お願いします。

○宮腰構成員 宮腰です。今、県のほうでも調査を実施されたこと、文科省さんでも調査をされているとのことがありましたので、調査の内容や結果については、ネットで掲載されているものについてはこちらで把握いたしますが、情報提供いただくことは可能でしょうか。文科省さんと玉城構成員のほうから少しコメントいただければと思います。以上です。

○背戸座長 ありがとうございます。では、酒井さんいかがでしょうか。

○酒井参事官補佐 文科省酒井でございます。聞こえていますでしょうか。

文科省のほうでは毎年度ですね、学校における教育の情報化の実態に関する調査を実施しておりまして、その調査結果につきましては調査結果を文部科学省のホームページに公開しているところです。

例えば、教員の ICT 指導力についても、沖縄県全体の教員の方の指導力という状況が今掲載されているところでございます。沖縄県の場合ですと、ICT の指導力があるというふうに答えている先生が 76%という結果になっておりまして、全国平均より少し高い数字が出ている状況でございます。

私ども、国のほうで各市町村別のデータはいただいておりますので、もし沖縄県様のほうで市町村別のデータ等をお持ちであるか、またそれが外に出せるものなのかも、私のほうでは把握や承知はしてはおりませんが、そういったデータ等も御検討いただくことは可能ではないでしょうかと考えている次第でございます。私からは以上となります。

○背戸座長 ありがとうございます。それでは、玉城さんいかがでしょうか。県のほうの情報はどういった形で見ることができるのか。お願いできますでしょうか。

○屋宜班長 聞こえますか。玉城ですが、所用で外しておりまして、私、屋宜が代理で出席しております。よろしくお願いいたします。県のほうには、先ほどの文科省のかたからお話しがあったとおり、文科省へ提出する資料があります。ただ市町村の場合は、担当課が違うものですから、担当課と調整した上で、提供したいと考えております。以上です。

○背戸座長 ありがとうございます。それでは、後ほど調整させていただくということでよろしいでしょうか。ほか、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは様々な御議論いただきました観点を踏まえまして、今年度の先行事例のヒアリング、ならびにアンケートにつきましては、再度情報収集を進めながら、事務局で調整し、後日追って連絡させていただいてよろしいでしょうか。はい、宮腰さんお願いいたします。

○宮腰構成員 1点確認ですけれども、アンケートの教員の方向けという部分については、既存のものは当然整理させていただいたうえで改めてもう 1 度する必要があるということも含めて、御判断いただく感じでよろしいでしょうか。

○背戸座長 いかがでしょうか。それでよろしいでしょうか。はい、屋宜さんお願いいたします。

○屋宜班長 沖縄県としても、新型コロナウイルス感染症による臨時休業に対する授業日数の確保という点で、夏季休業期間も 10 日間程度に短縮しております。先生方の負担も大きいため、可能な限りアンケート等は控えたいと考えております。以上です。

○背戸座長 ありがとうございます。先ほどからお話ありましたように、まずは状況を見て、負担を減らすことも踏まえ、また時期の問題もあろうかと思いますので、再度検討するということができればでしょうか。

○宮腰構成員 宮腰です。実施時期の関係もありますが、基本的には既存のものを整理した上で、やはり聞いたほうがいい事項があるか整理させていただいて、改めて御相談させていただければと思います。

○背戸座長 ありがとうございます。では、後日またそのように再調整ということにさせていただきたいと思います。それでは議題1はこれで閉じさせていただきます。

《2 令和2年度の実証実験（背戸構成員）》

○背戸座長 続きまして議題の2に進めさせていただきます。「令和2年度の実証実験」といたしまして、私、背戸から説明させていただきます。パワーポイントの資料を共有していただきたいと思います。

先ほど宮腰さんからお話ありましたように、平成29年度からこれまで3年間にわたりまして、琉球大学と与那国町ですとか、それから伊江村さんも入りまして、これまで様々な実証実験をやってまいりました。

その今年度の計画について少しだけお話をさせていただこうと思うのですが、まず最初のお断りとして、我々の実証実験というのは、検証委員会を立ち上げて、検証委員会でその計画を立てて進める手続きを取っております。今のところ若干春先遅れたこともありまして、検証委員会がまだ立ち上がっていない状況ですので、今日お話するのは、私の試案となっております。ただ、一応イメージを掴んでいただきたいということで、そういうつもりでお話させていただきたいと思っております。

それでは次のページをお願いします。まず目的ですけれども、これは離島地域の固有の教育課題、高校の不在ですとか学校・学級規模の小ささに伴う教育活動の制約、専科教員の不在、教員研修機会の少なさ等の解決に向けた、ICTを利用した遠隔教育による授業の充実とICT利用による教員研修機会の拡充に資する実証実験事業を行っていききたいと思っております。

次のページをお願いします。これは学内的な手続きになりますけれども、まずは内閣府さんからの補助事業の受託に向けまして、琉球大学内に準備委員会を設置したいと思っております。事業採択後は、この準備委員会を母体として、更に外部の委員もお入りいただいたうえで検証委員会を組織し、そこで具体的な計画ですとかを進めていきたいと思っております。

次のページをお願いします。その中で先ほどお断りしたとおり、私の試案でしかありませんが、今年度は大きく実証実験を、A・B、2つ取り組んでいきたいと思っております。今、資料で御覧になっていただいているのが実証実験のAでございます。

簡単に言いますと、これまで行ってきました ICT 機器を活用した遠隔教育ということで検討しています。本学の附属中と伊江村の伊江中学校の間で、遠隔授業等を行うというふうを考えられないかと思っております。時期、回数、教科等は先ほどお話ししたように未定となっております。今後の検証委員会および、伊江村・附属中学校、当事者間での協議によって決定させていただきたいと思っております。このあたりは、先ほどお話ありましたコロナの影響で授業時間数の確保というのが課題として残っているなかでの両校との調整でありますので、本当にほかの負担になるべくならないような形で進めていけたらと思っている次第です。

もう 1 ページ次に進んでください。そうしたなかですね、今年度はこれまでの取組を踏まえまして、少しまた新たな観点を入れられないかということで試案を載せておきました。後述いたします実験 B、教員研修とかかわりまして、伊江中学校に専科の教員がいない科目がもしあれば、そういった科目を中心に実証実験していけないかと思います。あるいは可能であれば実技ですとか、生徒間での意見交換がポイントになる科目を設定していきたいと思っております。これまで、英語ですとか数学ですとか理科というような科目をやってきたわけですが、実技系の科目にも新たに挑戦できたら、それはそれで意義があるかなと思います。

さらには、これは昨年度の実績がある話ですが、授業に加えて部活や学校行事、給食交流も行っていけたらいいのではないかと思います。更に可能であれば常時接続の機器を用意して、生徒間の新たな学校文化の生成を企図したいと思っております。繰り返しになりますが、これは私の試案になりますが、こういうことをたたき台に検証委員会で今後計画をたてて、進めていきたいと思っております。また、その結果に関しても、検証委員会でアンケート等々の検証を行っていく、という計画でございます。

次のページお願いいたします。4 番実証実験 B というふうにしておきました。これもまた試案でしかありませんが、昨年までは遠隔授業をやっていたわけですが、今年度は ICT 機器を活用した教員研修の充実ということに対する一つの実証実験をしていきたいと考えております。内容としては附属中学校の教員をリーダー、これはどちらでもいいかもしれませんが、附属中学校の教員をリーダーとして、伊江中学校を含むいくつかの中学校の教員で研修グループを形成し、定期あるいは不定期の遠隔研修を行えないものかということです。

もう 1 枚進んでいただきたいのですが、私の試案としましては、科目等は当然これから検証委員会での協議となるわけですが、先ほどの実験 A ですね、例えば美術の先生が家庭科を持っている、というような授業をもし選ぶことができたら、その授業の成立までの期間に研修を設けて、授業者同士の様々な検討をオンラインで設けて、実用化に向けた多角的な検証をしていきたいと思っております。あるいは専科教員が授業をやっていたとしても、勤務校に同僚がいない、例えば数学をやっている先生は 1 人だけとかですと、自己研修環境にも乏しいので、そういった先生同士のオンラインでの研修というものも考えていくことができないかと考えています。

これらに関しましては昨年度末に色々と計画を立てたわけですが、今年度はまだ動

いておりませんので、繰り返しになりますが、検証委員会を正式に立ち上げてから議論をしていきたいと思います。

最後のページは、上の右のほうに本検討会がございます。ここの検討会では先進地事例の検証ですとか、関係者ヒアリング、アンケート調査を行うことになっておりまして、こういった様々な検討の成果を、この琉球大学に設置する検証委員会にもフィードバックしていただきたいと思います。大学のほうに設置します検証委員会では、この実験の企画・提案・助言・連絡調整・進捗管理・成果検証などをしていきます。

その下に先ほど言いました、実験 A・B がぶらさがっている形でイメージしております。これにつきまして、伊江村さんとは何も詰めていない状況なので、まったくの私の試案なのですが、一応は昨年度末からの計画でもあり、今年度はこういう形で進めていこうという予定でしたので、これから具体的な相談はさせていただければと思います。

とりあえず、今年度の事業の青写真としては以上となります。ありがとうございました。この説明に関しまして、御質問ですとか、確認事項、それから御意見等々ございましたら、どうぞ手を挙げるボタンを押して、御発言いただきたいと思います。よろしく願いいたします。突然の指名で申し訳ありませんが、万寿さんいかがでしょうか、手も挙がっていましたね。お願いいたします。

○万寿構成員 聞こえますか。こんにちは、伊江村教育委員会の万寿と申します。よろしく願いいたします。

今の御説明のなかで、今年度の伊江村の関わりについてが主なテーマになっていますので、この全体資料をいただいたときに、伊江中学校に概略の内容説明をして、ヒアリングを行いました。最後のページで示されている、附属中との実験 A・B、この 2 本の柱についての話をしましたが、一応、実験 A については昨年度与那国町とやったような遠隔の授業でお相手が附属中になるというイメージということで、機材もそろっていますし、これは別段問題ないという印象でした。

ただ、専科、専門外の教科のかかわりについては、現状、伊江中学校のほうは、臨任であったり、ほかには専門外の人がやっているが、この意識レベルに差があるからどうだろうという不安は、向こうの先生がおっしゃっていました。できれば、やはり英語・数学とかですね、専門の先生同士のそういった交流でやれたらというのが、学校現場の意見でございました。

実験 B の遠隔の教員研修についても、やはり専科外の授業についての研修ではなくて、広い意味で校内研修を拡充するような形で附属中との先生方との情報交換であったりスキルアップのための交流ができればというような御意見がありました。私の方からは以上です。

○背戸座長 ありがとうございました。今、色々と伊江村の構想をうかがったのですが、実証実験とはいえ、それ自体がいい研修になるという方がいいに決まっていますので、そのあたりは、当事者同士の相談のなかで今後決めていきたいと思います。さっきのは全くの青写真ですので御安心いただければと思います。ありがとうございました。森田先生挙がってい

ますね。お願いいたします。

○森田構成員 聞こえますでしょうか。研究計画、ありがとうございます。

今書いてあることには異論はないですけども、今回提案されているのは学校対学校、サイトがしっかりとある状況だと思いますが、多分、沖縄はそれほどではなかったと思いますが、東京は大変そういった意味で学校に通えないので、リモートでみんな生徒が自宅からアクセスすることで色々問題になっておりまして、文科省さんの調査によると、5%程度しかオンライン授業をやってないという結果が4月に出ていたかと思います。

そういう意味で、これは可能かわからないですが、もし通えなくなった場合の遠隔授業の実証的な実験など、そういったことは何か御検討されているのか、それとも考える必要はないのか、お聞かせ願えればと思います。

○背戸座長 ありがとうございます。もちろんそれは重要な観点だろうと思っております。ただ、なにぶん、学校の負担を減らすことを考えると、これまで継続してきた観点を、実証実験の内容自体を絞りこんでいったほうがいいのかなどと思ってはおります。でも、今の観点も非常に重要ですので、繰り返しになりますので、そういったことも含めて、今後検証委員会で相談しながらできる限りのことをやっていければと思います。

○森田構成員 ありがとうございます。質問の意図というのはですね、通信制の高校とかを視野に入れておられるので、調査する時にですね、生徒が全くイメージできないまま回答していたらそれは全く考える余地がないということですので、やっぱり体験してみてもわかると答え方も変わってくるのかなと思っているので確認させていただいた次第です。

そして、教員の負担を増やす意図はございませんので、できる範囲で、ただの案ですので、検討していただければ幸いです。ありがとうございました。

○宮腰構成員 宮腰です。森田先生の御発言をお伺いしての質問なのですが、沖縄県内でコロナのための休校中ですね、ICTを使った、授業などの取組で県や市町村で具体的にされたことがありましたら教えていただければありがたいと思います。

○背戸座長 このあたりは、宮城さんから情報提供いただくのがいいと思っておりますが、たしか宜野湾ですとか北中城村だったかで、いくつかの自治体でオンラインの授業をしていたのだと思いますが、どなたか情報お持ちでしょうか。宮城さんいかがでしょうか。屋宜さんでしょうか、お願いできますか。

○屋宜班長 市町村のICT環境がどれぐらい進んでいたかは、私は県立学校のほうしかわからなくて大変申し訳ないですが、県立総合教育センターの宮城班長が良く御存じかと思しますので宜しくお願いします。県立学校のほうは5月21日に学校が再開して5月21日から31日までは分散登校、6月1日からは通常授業という形で進めてきましたが、やはり生徒達のネット環境の有無、あとは先生方が遠隔教育に対して不慣れである点など、一斉臨時休業中の遠隔授業は、なかなか進まなかった現状があります。

しかしながら、やはり流行の第2波・3波が、ある程度予想されるので、学校のほうには、県立教育センターが推奨しているクラウドを活用して、遠隔学習のコンテンツを作ってほ

しいということで、各学校に依頼しているところです。詳しいところは宮城班長からお聞きしたほうがいいかもしれません。よろしくお願いいたします。

○宮城構成員 こんにちは。IT 教育班の宮城です。よろしくお願いいたします。

新型コロナに対する遠隔授業ということでお話ですが、まず市町村に関してはこちらまだ情報を把握できておりませんが、遠隔授業となると、児童・生徒がなんらかのアカウントを持って、やり取りをする必要があるかと思います。

県立高校や特別支援学校については、こちらで児童・生徒に対してアカウントを発行することができるので、第2波・3波に対しては今準備を進めています。各市町村で、そういった児童・生徒にアカウントを発行・付与できているかは自治体によって差が出ているかと思われます。以上です。

○背戸構成員 宮腰さんいかがでしょうか。今のような状況です。

○宮腰構成員 ありがとうございます。

○背戸座長 ほか何かございますでしょうか。もしなければ時間も押しておりますので、議題の3に移らせていただいてよろしいでしょうか。では議題3、沖縄県内の高校教育の現状について、屋宜さんのほうから御紹介いただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

《3 沖縄県内の高校教育の現状（沖縄県教育庁）》

○屋宜班長 聞こえますでしょうか。大丈夫でしょうか。沖縄県の高等学校のことですので、総務課の学校編成整備計画を担当する部署がでございますので、その宮城主任のほうから発表させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○背戸構成員 よろしく願いいたします。

○宮城主任 皆さんこんにちは。聞こえますでしょうか。沖縄県教育庁総務課、教育企画室の宮城と申します。本日はよろしくお願いいたします。私からは、題名にありますとおり、「沖縄県立高等学校編成整備計画等について」説明いたします。

次のページをお開きください。沖縄県の教育委員会調べによる、沖縄県の高等学校数および生徒数について説明いたします。沖縄県の県立高等学校、これはすべて全日制で通信制を除いておりますが、県立高校60校、私立高校4校、課程別に見ますと、全日制課程の単独校は57校、定時制単独校は1校、全日・定時制併置校が6校、令和2年度の生徒数は全体で4万5,450人となっております。

次のページへお進みください。この図は、沖縄県における県立高校の設置状況の図になります、北は一番上にあります大宜味村の辺土名高校から、南は石垣島、右下の八重山高校まで、60校が設置されております。この図を見てわかりますとおり、本島の中南部地区に多くの学校が集中している状況があります。

次のページへお進みください。県内の中学校卒業生数の推移予測になります、県内の中学校卒業生数は平成 12 年 3 月卒の 2 万 454 人をピークに減少しており、令和 3 年 3 月卒は 1 万 5,829 人を境に一旦上昇しますが、令和 8 年 3 月卒は 1 万 7,255 人を境に、減少傾向に転ずる見込みです。

次のページお進みください。学校基本調査による高等学校等進学率のグラフで、全国との比較になります。本県の平成 31 年度、高等学校等進学率は 97.3%、全国 98.8%となっております。平成元年度には全国との差が 4%ほどありましたが、平成 31 年度は全国との差が 1.5%に縮小をしています。

次のページお進みください。沖縄県立高等学校編成整備計画について説明いたします。県立高等学校編成整備計画は、少子化等への対応や、多様な学習スタイルなどに十分対応できる教育環境の充実を図り、生徒・保護者にとって魅力的な学校づくりを推進することを目指して策定をしています。現在、第 5 期編成整備計画、平成 24 年度から令和 3 年度までとなっておりますが、これを実施しておりまして、県立高校の適正規模化や統廃合、学科改編を計画しております。

次のページにお進みください。編成整備計画の基本的事項、沖縄県立高校のスタンスといたしまして、高等学校の適正規模を 4 から 8 学級と定めており、生徒の能力・適性・興味・進路等が多様化していることから、それぞれの個性を最大限に伸ばすために、一定程度の学校規模が必要と考えています。学校規模の適正化により、ニーズに応じた教育課程の編成、生徒の社会性を育てる集団活動、学習活動や部活動の機会確保などの教育的効果があると考えております。

次のページへお進みください。その他、基本的事項、スタンスとして、募集停止および学校の統廃合があります。1 学級以上の定員の過半数割れが 2 年連続で生じた場合は、3 年目から学級を減じ、これに関わる募集停止を行うとしています。また、収容定員が 240 人、これは各学年 2 学級になりますが、これを満たさないことが見込まれる学校は、地域の実情を十分に考慮したうえで、分校化または近隣学校との統合を検討するとしています。更に、小規模の学校において、将来にわたって生徒数が増加する見通しが立たないと見込まれる場合には、複数の学校間での再編統合を検討するとしています。

次のページへお願いします。これは、高等学校学級規模の割合の全国比較です。下のほうに学級数がありますが、4 から 8 学級規模の割合が全国・沖縄県とも、70%以上となっております。

次のページお願いします。県立高等学校編成整備計画実施状況について説明いたします。次お願いします。まず①新しい学科の設置についてです。北部地域の教育環境の充実に資する目的で、平成 27 年度に、県立名護高等学校に理数科等大学進学に特化したフロンティア科を開設いたしました。フロンティア科の生徒が、地元の琉球大学の医学部・医学科に合格するなど、設置効果があらわれつつあると考えております。

次のページをお開きください。②学校規模の適正化についてです。適正規模を上回る学校

(過大規模校)を対象に、1学級減を行い、適正化を図っており、現計画において、6校の適正化を図っております。

次のページをお願いします。③学校の統廃合についてです。本部高校を北山高校への統合につきましては、本部町が、地域振興の観点から本部高校の存続を強く要請し、町の予算で同高校を支援する取組を行っていることから、計画は未実施となっております。辺土名高校を名護高校の分校化につきましては、地元から地域振興の観点からも、単独校としての存続を強く要請していることから、計画は未実施となっております。

次のページをお願いします。次に、久米島高校の園芸科の廃科についてですが、久米島町が園芸科の存続等を強く要請し、また、町の事業として、久米島高校魅力化支援事業を立ち上げ、魅力化支援員の配置、離島留学の推進や町営塾による学力向上の支援など、同高校を支援する取組を行っていることから計画は未実施となっております。これらの計画につきましては、総合的に考え、適切に対応していきたいと考えております。次に、伊良部高校における宮古高校への統合についてですが、伊良部島の人口減少に伴い、入学生の減少が続き、進路希望に応じた選択科目や体育の授業、学校行事、部活動が制限されるなど、学校教育に支障を生じていることから、生徒の教育環境を第一に考え、平成31年度沖縄県立高等学校入学者選抜から生徒募集を停止しました。その後、地元との調整を行い、教育活動に支障が出ないように取り組んでおります。

次のページをお願いします。離島の高校の状況等について説明します。次のページをお願いします。地図上、赤枠で囲っているところが高校のある離島になります。久米島、宮古島、石垣島の3島です。次のページをお願いします。久米島には久米島高校、1校が設置されております。宮古島には宮古高校、宮古工業高校、宮古総合実業高校、伊良部高校の4校が設置されています。石垣島には八重山高校、八重山農林高校、八重山商工高校、商工高校には定時制課程が併設されています。離島地区は少子化の影響で、令和2年度の県立高等学校入学者選抜では、募集停止の伊良部高校、石垣島の八重山高校を除く6校で、入学者が定員を下回る状況となっています。また、久米島・宮古島・石垣島の3島から、本島の高校に、約100人の生徒が進学している状況があります。

次のページをお願いします。沖縄県離島等出身高校生に関する主な沖縄県の施策です。沖縄県や県内市町村において、離島等出身の高校生の経済的負担の軽減を図るため各種施策を実施しております。繰り返しになりますが、沖縄県立高等学校寄宿舎の整備についてです。離島や住居が遠隔地のため、自宅通学が不便な生徒に生活の場を提供するとともに、規律ある共同生活を送ることで、社会性と協力心などを養う場とすることを目的に県立高校11校、総定員数760人の寄宿舎を整備しています。現在、男子349人、女子264人、計613人の生徒が入寮しています。

次に、沖縄県立離島児童生徒支援センターの整備についてです。高校の無い、離島出身者の経済的負担を軽減するとともに、離島振興に資するために、高校進学する際の生徒の寄宿舎と小中高校生の交流拠点としての機能を合わせ持つ施設として、平成28年1月に開所し、

15 の春に島立ちする生徒、保護者の精神的・経済的負担の軽減が図られていると考えております。現在、男子 53 人、女子 54 人、計 107 人が入寮しております。

離島高校生修学支援事業についてです。高校未設置島を有する市町村において、島を出て進学する高校生の居住費や帰省費等を支援していくため、国および県の補助を受け、年額 24 万円を支給しております。

私のほうからの発表は以上となります。どうもありがとうございました。

○背戸座長 ありがとうございます。それでは、ただ今の御説明につきまして、質問・確認事項等ございましたらお願いします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。かなり詳しいデータでしたので、特段、確認事項も無いかもしれません。はい、貴重なデータありがとうございました。宮腰さんが手を挙げていますね。

○宮腰構成員 宮腰です。1 件だけです。

県立高校の再編の計画のなかでですね、「1 校ずつの規模をあまり大きくなり過ぎず、一定規模が保てる適正規模になるように再編していく」という話だったと思うのですが、地域によっては、一定規模で作るということがもう難しい場合も結構ある中で、地理的に通うのが難しい場合も出てくる場合もあるのでないかと思うのですが、そういうことについてはどうお考えでしょうか。

適正な規模の観点と地理的な配置、というのがなかなか一致しない場合というものもあるのではないかと思います。どのように検討されているのかというのがあれば教えていただければと思うのですが。

○背戸座長 はい、ありがとうございます。御回答いただいてもよろしいでしょうか。

○宮城主任 はい。一定規模が必要という話で、宮腰様からお話がいったように、地理的にすごく大変な辺土名高校とかは遠隔地のため、遠くに行ってしまうと高校への通学が難しいという状況もありますので、そういうのも考慮して、県では離島児童生徒支援センターであるとか、寄宿舎の配置を通して、生徒のサポートをしております。

○背戸座長 ありがとうございます。宮腰さんいかがでしょうか。

○宮腰構成員 はい、ありがとうございました。

○背戸座長 ほか、御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、時間も押しておりますので、議題の 3 つきましてはここで閉めさせていただきます。最後に議題の 4 といたしまして、教育環境改善の取組の現状についてということで、県の総合教育センターの宮城さんより御説明いただきたいと思います。宮城さん、どうぞお願いします。

《4 教育環境改善の取組の現状（沖縄県立総合教育センター）》

○宮城構成員 ではよろしくお願ひいたします。こちら、県立総合教育センター IT 教育班の業務として、もちろん研修機関ですので様々な研修をしているのですが、特に我々

IT 教育班は、県内の幼稚園小中高特別支援学校、すべての校種の先生方にですね、ICT を活用した授業改善であったり、校務の情報化などといった、学校教育の情報化の推進を図るための研修をやっております。

今回、学校の教職員の先生方向けの研修についてお話をしてほしい、という話だったので、今年度、当初予定されていた当班の研修一覧を提供させていただきました。

枠が上に二段分かれておりまして、上が ICT 教育研修、下が夏期短期研修、2 つ大きく分けてありますが、まず下から御説明いたします。

夏期短期研修というものは、夏休み期間ですね、学校現場が夏季休業期間中、先生方がそれぞれ個人のスキルアップのために研修をしていただく、応募研修となっております。ただ、今年度ですね、新型コロナの関係で学校現場の夏休み期間が本当に狭まって、授業優先ということになったのと、あとはこの研修を企画している段階で、まだ学校の休校が実施されている段階でしたので、3 密を防いだり、対話的な研修はできないということでした、この肌色で塗りつぶされている研修は今年度は残念ながら中止となっております。

ただ、例年はこのように夏休み期間中は多くの先生方に応募していただいて、先生方のスキルアップの研修を提供させていただいております。

それとは別に上のほうがですね、ICT 教育研修ということで、これはどちらかというと、各学校の情報担当者、各学校における情報化を推進してもらえようリーダーの育成を目指した研修ということで、各学校からおひとりずつ呼んでの研修であったりします。上から 2 段目 3 段目、ICT 教育講座というのは、昨今ではプログラミング教育であったり、情報モラルという情報教育に向けた担当者向けの研修であったり、校務の情報化は校務情報支援システムとか、表計算ソフトとか、そういったスキル研修を通して、学校の校務を効率化できるような先生方への支援をしております。中段の太い黒枠で囲まれた研修については、こちら IT 教育班は県内の高校・特別支援学校のインターネットであったり、学校ウェブページ、あとは校務支援システム等々を、こちらで管理運用支援していますので、その担当者向けの研修となっております。

その下は、授業における ICT 活用講座として、最近では電子黒板の使い方であったりタブレット端末で授業にどう活用していくかという研修を、年間を通して多くの先生方に提供し、各学校での ICT を活用した授業改善・校務の情報化等々に努めております。簡単ですが以上で教育環境改善の取組の現状についての説明を終わります。ありがとうございました。

○背戸座長 ありがとうございます。それでは、ただいまの御説明につきまして、御質問ですとか確認事項とか頂戴したいと思います。何かございますでしょうか。手を挙げるボタンで御発言をお願いします。すみません、私から 1 点よろしいでしょうか。先ほど文科省の説明からも、沖縄の ICT の教育指導力というのは結構高いというようなことがありましたけれども、宮城さんから見て実態と言いますか、どのぐらい ICT 対応が進んでいるという実感などはあるでしょうか。

○宮城構成員 文科省が毎年、年度末、全国的に ICT を活用した授業、教員の調査をして

いるかと思います。その結果、沖縄県は上位のほうに占めてはいると思います。実際、学校現場の先生方はかなり使えると思います。

ただ、県立学校に関しては、ある程度、一定の機器が入っていますが、各市町村におかれては、その市町村ごとに PC の導入やタブレット端末の導入、ネットワーク回線のスピードのばらつきがあつて、この辺は問題ではないかと思います。ただ、先生方のスキルと言いましようか指導力については、手前味噌ですが、文科省の実態調査よりも上にあるんじゃないかと思います。それはやはり先生方が調査やったときに、なかなか皆さん、自信をもって使えますと答えてくれないだけで、意外と使えていると思います。

○背戸座長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。手を挙げるボタンでお願いします。よろしいでしょうか。もう 1 点だけ私のほうからすみません、先ほど市町村でばらつきがあるとのお話でしたが、宮城さんから見て、あそこは進んでいるという場所がありましたら、教えていただけないでしょうか。設備が充実していると言いましようか。

○宮城構成員 すべてを私のほうで把握しているわけではないですが、浦添市・那覇市は進んでいると思います。ネットワーク的にも電子黒板やタブレット端末の導入状況とか、機器があれば皆さん自然に使える環境にありますので。

ただ最近では、各市町村も一生懸命この整備をしているので、もうちょっと具体的にどこが進んでいるかは、義務教育課とか、各教育事務所の担当者のほうが詳しい把握はされているかと思います。

○背戸座長 詳しいお話と貴重な情報、ありがとうございます。ほか、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは議題 4 を閉じさせていただきます。本日用意されている議題は以上となります。最後に確認忘れとか、そういったことございますでしょうか。大丈夫でしょうか。それでは最後に、今後のスケジュール等について事務局より御説明をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

○宮腰構成員 宮腰です。そうしましたら、アンケートと、ヒアリングにつきましては改めて整理して、調整をさせていただければと思います。ヒアリングにつきましては、先方の都合などもございますので、ヒアリング先を整理したうえで、日程等も含めて、改めて御相談させていただければと思います。次回の検討会につきましては、9 月～10 月を予定しておりますので、また日程が決まりましたら御連絡させていただきます。以上となります。

○背戸座長 ありがとうございます。先ほどお話ありました、その既存アンケートの情報等々が集約できましたら各委員に、情報のリストを共有していただけると、各自で眺めていけるかと思うのでよろしく願いいたします。ほか何か御質問や要望ですとかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

《(4) 閉会》

○背戸座長 それでは、ちょうど定刻となりましたので、ほかに御意見等なければ、本日の検討会をこれで終了させていただきたいと思います。本日はウェブ会議でしたが、御参加いただきありがとうございます。今年度もまた、沖縄の教育環境の改善に向けて、皆さんのお力を頂戴できればと思っております、ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。それではこれで閉会させていただきます。各自御退出をお願いいたします。ありがとうございました。